

◆ コスモエネルギーホールディングス（5021）

2021 年度 第三四半期決算 アナリスト・機関投資家向け決算説明会 質疑応答

---

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 －

1. 日時 : 2022 年 2 月 10 日（木） 18 時 00 分～19 時 00 分
2. 出席者 : 75 名
3. 主な質疑内容 :

Q1:通期の業績予想について一過性と思われる要因を教えてください。

A1:石油事業におけるマージン改善は原油価格上昇によるプラスのタイムラグであり、一過性と考えている。前回公表比でマージン+151 億円のうち、四品+92 億円に関してはプラスのタイムラグ影響となり、通期のタイムラグ影響としては 1.0 円/L 程度を見込んでいる。

Q2:3Q 単体の在庫影響を除く石油事業の利益が大きくなるように見えるが要因を教えてください。

A2:主に 10-12 月は灯油の季節要因による販売数量の増販、ならびに四品外の海外市況良化が要因と考えている。

Q3:4Q 単体の石油化学事業が赤字になる見込みだが、市況要因によるものか教えてください。

A3:4Q には定修を予定しており、販売数量の減少や修繕費の増加を見込んでいる。加えて市況も若干の軟化を想定している。

Q4:4Q の石油事業のマージンをどのような前提で考えているのか教えてください。

A4:四品は 2-3 月の原油価格の想定 85\$を踏まえ、想定し直している。四品外は少し保守的に見ており、現在の実勢は想定より若干上振れている状態。

Q5:今後の洋上風力の入札に向けた戦略の見直しについて具体的に教えてください。また、今回の由利本荘市沖の結果を受けて、陸上と洋上のリソース配分を見直す議論などはあるか教えてください。

A5:由利本荘市沖を含めた今回の落札価格については現在分析しており詳細まではわからない。今後の戦略ではサプライチェーンの見直しとして、コンソーシアムの見直しなどによる建設コストの低減、O&M 費用の見直し、販売先を含めグリーン価値を入札価格にどのように反映させていくかなどを検討している。陸上についてはこれまで通り、ノンファーム型接続を含め着実に進めていく。

Q6:今年度にて中計目標が前倒しにて達成見込みとのことだが、次期中計を前倒して発表することはあり得るのか教えてください。

A6: 1 年前倒しとは言いながらもまだ道半ばと考えている。原油価格がいつ下落するか、コロナ影響が

いつまで継続するかなどわからない状況の中、次期中計の前倒しの議論にはなっていない。ただし、足元の状況は非常に好調であることから、株主還元を含めて経営資源をどのように配分していくかはこれから議論の大きな焦点になる。

Q7:洋上風力開発の先行費用をどの程度資産化しているのか教えてほしい。また、由利本荘市沖の入札結果を受けて短期的に先行費用は減少していくのか教えてほしい。

A7:先行費用の資産化について詳細な数字は申し上げられないが現時点で大きな金額にはなっていない。今後の先行費用については、由利本荘市沖はコンソリダーではなかったため金額は限定的、一方で当社がコンソリダーである青森西北沖はこれから本格的に先行費用が掛かってくることから、当初の見通しから変更はない。

Q8:実カベースの経常利益はタイムラグ影響を除いた1,100億後半程度と考えているが、現時点の収益力を教えてほしい。

A8:連結ベースでは原油価格が大きく影響することから石油事業について回答させていただく。来年度は今年度のタイムラグ影響の見通し150億円程度が剥落するが、JET燃料の需要回復により一定程度は相殺される。また来年度は定修予定がないことから、今年度並みの高い稼働維持を見込んでいる。

Q9:株主還元について配当の考え方を教えてほしい。

A9:基本的には次期中計においてキャッシュ・フローをどのように配分していくかを検討する。株主還元の新たなステージは次期中計になると思うが、ブリッジ期間となる来年度も考えなければならない。一方で財務体質の改善は進んでいるが、依然として格付けはBBB格であることもあり、株主還元についても慎重にならざるを得ない。

Q10:IMO規制への対応は当初想定していなかったコロナ影響が発生した中で、どのような結果か教えてほしい。

A10:当初はスプレッドが30ドル前後開いていくのではと想定していたが、足元は流動的になっており概ね20~25ドル程度で推移している。当初の想定から効果は小さくなっているが、一定の効果はあったと考えている。

Q11:ガソリン補助金についてキャッシュ・フローに影響はあるか教えてほしい。

A11:影響はないと考えている。

Q12:石油開発について、カタールのトラブル状況について教えてほしい。またハイル油田のアップデートがあれば教えてほしい。

A12:トラブル状況は通年において変わっていない。ハイル油田の水攻法は工事を着々と進めており、

2022年12月の水圧入開始を目指している。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。

このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。